

令和7年度

# 専攻科学生募集要項

推薦選抜による選抜 (学校長推薦・社会人 特別推薦)	出願書類受付期間	令和6年5月7日(火)～5月10日(金) 16時30分
	選抜期日	令和6年5月16日(木)
	合格発表	令和6年5月23日(木)
	確約期日	令和6年6月5日(水)

学力検査による選抜 (A方式・B方式)	出願書類受付期間	令和6年6月3日(月)～6月7日(金) 16時30分
	選抜期日	令和6年6月15日(土)
	合格発表	令和6年6月21日(金)
	確約期日	(A) 令和6年6月28日(金) (B) 令和6年9月27日(金)

社会人選抜	出願書類受付期間	令和6年8月19日(月)～8月23日(金) 16時30分
	選抜期日	令和6年9月19日(木)
	合格発表	令和6年9月26日(木)
	確約期日	令和6年10月9日(水)

令和6年4月

独立行政法人国立高等専門学校機構

奈良工業高等専門学校

奈良県大和郡山市矢田町22番地 (〒639-1080)

電話 0743-55-6032(学生課入試係)

# 目 次

## 学生募集要項

I. 専攻科の概要について	1
II. 先端融合テクノロジー連携教育プログラムについて	1
III. 高専-大学院連携教育プログラムについて	1
IV. 募集人員	1
V. 入学者の選抜方法	1
<b>推薦による選抜(学校長推薦・社会人特別推薦)</b>	2
1. 出願資格	2
2. 出願手続	2
3. 選抜方法	3
4. その他の注意事項	4
5. 合格者の発表	4
6. 入学手続等	4
7. 推薦による選抜の結果合格とならなかった場合の取扱い	4
<b>学力検査による選抜(A方式・B方式)</b>	5
1. 出願資格	5
2. 出願手続	5
3. 選抜方法	6
4. その他の注意事項	7
5. 合格者の発表	7
6. 入学手続等	7
<b>社会人選抜</b>	8
1. 出願資格	8
2. 出願手続	8
3. 選抜方法	8
4. その他の注意事項	9
5. 合格者の発表	9
6. 入学手続等	9
VI. 個人情報取扱いについて	10
VII. 合理的配慮等を必要とする場合の事前相談	10
VIII. その他	10
入学案内	11
高専-大学院連携教育プログラムとは?	15

## 添付書類

- |               |                  |                    |
|---------------|------------------|--------------------|
| ① 入学願書(推薦用)   | ② 推薦書(学校長推薦志願者用) | ③ 推薦書(社会人特別推薦志願者用) |
| ④ 受験票・写真票     | ⑤ 入学願書(学力・社会人選抜) | ⑥ 志願理由書(社会人選抜)     |
| ⑦ 調査書         | ⑧ TOEICスコア報告書    | ⑨ 入学検定料振込依頼書       |
| ⑩ 出願用封筒(角2封筒) | ⑪ 受験票返信用封筒(長3封筒) |                    |

※推薦書, 調査書及び志願理由書の様式は, 本校ホームページにも掲載していますので, そちらもご利用いただけます。 <https://www.nara-k.ac.jp/enterschool/senkou/gaiyou/>

# 令和7年度 専攻科学生募集要項

独立行政法人国立高等専門学校機構  
奈良工業高等専門学校

## I. 専攻科の概要について

国際的に活躍できる技術者・研究者を目指して、5年間の高専教育を受けた者が、さらに2年間、今までよりも深く、専門的でかつ先進的な学修をするところです。高専専攻科は、修了する年齢や学士(工学)の学位が得られる点では大学工学部と全く同等です。しかし、専門の基礎教育を受けた高専卒業生を受け入れているため、大学工学部に比べ実践的な実験・教育に重点をおいた教育指導を推進しています。本校専攻科は本科5年間の早期実践教育の特色を継承して大学学部教育と大学院修士課程の内容の一部を取り入れた7年一貫教育を行っており、実践的な研究者、技術者を育成している。この点が大学工学部と大きく異なる特色です。

本校専攻科は、平成29年に、①高度研究開発人材の養成、②地域創生人材養成、③グローバル人材の養成を柱に、専攻の改組を行い、2専攻3コース(システム創成工学専攻(機械制御システムコース、電気電子システムコース、情報システムコース)、物質創成工学専攻)の体制で教育を実施しています。これにより、システム創成工学専攻の3コース及び物質創成工学専攻が、それぞれ、大学改革支援・学位授与機構から授与される「機械工学」、「電気電子工学」、「情報工学」、「応用化学」の区分の学位に対応した形に再編され、本科で学んだ専門知識をより深化させる教育課程を実施できるようになりました。また、本校専攻科ではグローバルに活躍できる人材を養成するために、「グローバル工学協働教育プログラム・アドバンスコース」を、リーダーシップ力の向上のために「しなやかエンジニア教育プログラム・アドバンスコース」を開設しています。さらに、豊橋技術科学大学とは専攻科の修了と大学の学位が同時に得られる先端融合テクノロジー連携教育プログラム、奈良先端科学技術大学院大学とは博士前期課程を1年で短期修了・学位取得が可能となる高専-大学院連携教育プログラムを開設しています。

## II. 先端融合テクノロジー連携教育プログラムについて

本プログラムは、本校と豊橋技術科学大学が互いの強みをもつ教育資源を有効活用しつつ、卒業後、地域等の社会で活躍することができる分野横断型の実践的技術者を育成することを目的とし、連携・協力して実施するものです。連携教育プログラム履修者は、本校専攻科と豊橋技術科学大学の双方に在籍し、それぞれの課程を修了することにより、本校専攻科の修了証書と豊橋技術科学大学の卒業証書(学士の学位記)が授与されます。

## III. 高専-大学院連携教育プログラムについて

奈良先端科学技術大学院大学と連携教育プログラムを構築し、本校専攻科の在籍中に奈良先端科学技術大学院大学の「特別学修生」と「科目等履修生」の制度を活用し、先行的に奈良先端科学技術大学院大学の大学院授業科目を履修しつつ、本校教員と奈良先端科学技術大学院大学教員が共同で連携して研究指導に当たり、博士前期課程を1年で短期修了することを目指すものです。

## IV. 募集人員

専攻別の募集人員は、下記のとおりです。

専攻	募集人員	コース	備考
システム創成工学専攻	24名	機械制御システムコース	12名程度
		電気電子システムコース	6名程度
		情報システムコース	6名程度
物質創成工学専攻	6名		

## V. 入学者の選抜方法

入学者の選抜は、推薦による選抜、学力検査による選抜(A方式・B方式)及び社会人選抜により行います。

# 推薦による選抜（学校長推薦・社会人特別推薦）

## 1. 出願資格

### (1) 学校長推薦

以下のア～オの条件をすべて満たす者

ア. 令和7年3月高等専門学校卒業見込みの者

イ. TOEIC公開テスト, TOEIC-IPテスト(オンラインは除く)のスコア400点以上を令和4年4月1日から令和6年3月31日の間に取得している者

ウ. 出身学校長が人物・学業ともに優れていると認めた者

エ. 入学希望の専攻, コースの関係は, 表1を満足するものとします。

オ. 同一高等専門学校, 同一学科からの推薦上限人数は, 4名以内とします。

表1 専攻, コース毎に推薦できる在籍学科

入学希望の専攻, コース	推薦できる在籍学科
システム創成工学専攻 機械制御システムコース	機械工学系の教育が行われている学科。なお, 特例認定*を受けている学科の場合は「機械工学」の区分の認定を受けている学科に限る。
システム創成工学専攻 電気電子システムコース	電気電子工学系の教育が行われている学科。なお, 特例認定を受けている学科の場合は「電気電子工学」の区分の認定を受けている学科に限る。
システム創成工学専攻 情報システムコース	情報工学系の教育が行われている学科。なお, 特例認定を受けている学科の場合は「情報工学」の区分の認定を受けている学科に限る。
物質創成工学専攻	化学系の教育が行われている学科。なお, 特例認定を受けている学科の場合は「応用化学」の区分の認定を受けている学科に限る。

\*特例認定とは, 大学改革支援・学位授与機構の「学士の学位の授与に係る特例の適用認定」を言います。

### (2) 社会人特別推薦

高等専門学校を卒業し, 正規職員として勤務中の者で, 所属企業等の長が勤務成績及び人物とも優秀であると認めて在職のまま入学を推薦する者。

## 2. 出願手続

### (1) 願書受付

① 期 間 令和6年5月7日(火)～5月10日(金) 期間内必着

② 時 間 9時00分から16時30分まで

③ 受付場所 奈良県大和郡山市矢田町 22 番地

奈良工業高等専門学校 学生課入試係

### (2) 出願に必要な書類等

① 入学願書(推薦用)	本校所定の用紙に必要事項を本人が記入してください。
② 推 薦 書	(学校長推薦) 本校所定の様式で出身学校長が作成してください。 (社会人特別推薦) 本校所定の様式で所属企業等の長が作成してください。

③ 写真票及び受験票	本校所定の用紙に必要事項を本人が記入し、正面上半身無帽で、出願以前3ヵ月以内に撮影した写真を所定の位置に貼付してください。
④ (学校長推薦) 調査書	本校所定の様式により出身学校長が作成し、厳封してください。
学業成績証明書	出身学校長が作成し、厳封してください。
⑤ (社会人特別推薦) 学業成績証明書 卒業証明書	出身学校長が作成し、厳封してください。
⑥ TOEICスコア報告書 及び「公式認定証」または 「個人成績表」の原本	本校所定の用紙に、令和4年4月1日から令和6年3月31日の間に取得した最高スコアを記入し、裏面に原本のコピーを貼付してください。原本は確認のうえ返還します。TOEIC-IP(オンライン)によるスコアは不可です。
⑦ 検定料	<b>16,500円</b> 本校所定の用紙に必要事項を記入し、最寄りの金融機関から下記受付期間中に振り込み、 <b>振込金証明書(学校提出用)</b> を願書の裏面に貼付してください。なお、検定料の払い戻しは、次の場合を除き行いません。 ・検定料を納付したが出願しなかった場合 ・出願が受理されなかった場合 ・検定料を重複で納付した場合 ・国費外国人留学生(日本政府(文部科学省)奨学金留学生)として、出身学校において奨学金を受給している者が、この奨学金の延長を申請した結果、延長を認められ、かつ本校へ入学する場合 <b>※ 検定料振込受付期間：令和6年4月23日(火)～5月10日(金)</b>
⑧ 受験票の返信用封筒 ※持参して出願する場合は不要	受験票の郵送を希望する場合は、冊子とじ込みの封筒(長3封筒)に志願者の郵便番号、住所、氏名を明記し、344円(速達料金を含む)の切手を貼付してください。
⑨ その他	現に日本に在住する外国人は、市区町村長の発行する「住民票」を提出してください。

### (3) 出願に関する注意事項

- ① 出願は、本校所定の出願書類により、出願期間中に持参または郵送してください。ただし、郵送の場合は冊子とじ込みの封筒(角2封筒)を用い、書留郵便にて送付してください。
- ② 提出した出願書類は、いかなる理由があっても返還しません。
- ③ 出願した書類に不備がある場合は、受理しないことがあります。
- ④ 提出した出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学許可後であっても入学許可を取り消すことがあります。
- ⑤ 出願にはTOEICスコアの原本が必要です。(TOEICスコアの原本の再発行には、申請してから1ヵ月程度かかります。)
- ⑥ 社会人特別推薦による選抜を希望する者は、TOEICの未受験者であっても、専攻科の受験資格はありますが、「公開テスト」あるいは「IPテスト」を事前に受験し、出願時にTOEICスコアを提出することが望ましいと考えます。ただし、TOEIC-IP(オンライン)によるスコアは不可です。
- ⑦ 本校卒業見込以外の者で出願しようとする者は、出身学校での科目・単位取得状況によっては、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構からの学位が授与されない場合があります。

### 3. 選抜方法

入学者の選抜は、推薦書(出身学校長もしくは所属企業等の長から提出されたもの)、調査書、学業成績証明書(100点)及び面接(100点)の結果を総合して行います。ただし、面接点が40点以下の者は、本校専攻科のアドミッションポリシーに著しくそぐわないと判断し、総得点に関わらず、不合格とします。

面接は下記により行います。

- ① 日 時 令和6年5月16日(木)9時30分から
- ② 場 所 奈良工業高等専門学校

#### 4. その他の注意事項

- (1) 入学願書提出後に住所(受信先)を変更したときは、ただちに学生課入試係に届け出てください。
- (2) 面接当日は9時10分までに、受付を終えてください。
- (3) 受験者は、検査当日「受験票」を必ず携行してください。
- (4) 宿泊の斡旋はしませんので、受験者において適宜確保してください。

#### 5. 合格者の発表

選抜の結果は、令和6年5月23日(木)12時30分に本校構内に掲示により発表するとともに、合格者には本校において「合格通知書」を交付し、推薦者あてに可否を文書で通知します。また、12時30分頃に合格者の受験番号を本校ホームページ(<https://www.nara-k.ac.jp>)に掲載します。正式な合格発表は「合格通知書」によります。

なお、電話等による可否の照会には、一切応じません。

#### 6. 入学手続等

- (1) 合格者は、「入学確約書」(合格通知書と同時に交付します。)を令和6年6月5日(水)(当日消印有効)までに提出してください。「入学確約書」を提出しない者は、入学の意志がないものとして取扱います。
- (2) 入学手続日、入学に必要な書類及び経費については、「入学確約書」を提出した合格者に令和7年2月下旬に改めて通知します。

#### 7. 推薦による選抜の結果合格とならなかった場合の取扱い

「推薦による選抜」の結果、合格とならなかった者で「学力検査による選抜」を受験したい者は、再度、下記の出願書類等を令和6年6月3日(月)～6月7日(金)の間に、持参もしくは書留郵便で提出し手続きを完了してください。

① 入学願書(学力用)	本校所定の用紙に必要事項を本人が記入してください。
② 写真票及び受験票	本校所定の用紙に必要事項を本人が記入し、正面上半身無帽で、出願以前3ヵ月以内に撮影した写真を所定の位置に貼付してください。
③ 検 定 料	<b>16,500 円</b> 本校所定の用紙に必要事項を記入し、最寄りの金融機関から下記受付期間中に振り込み、 <b>振込金証明書(学校提出用)</b> を願書の裏面に貼付してください。なお、検定料の払い戻しは、推薦による選抜と同様の場合を除き行いません。 <b>※ 検定料振込受付期間：令和6年5月27日(月)～6月7日(金)</b>
④ 受験票の返信用封筒 ※持参して出願する場合は不要	受験票の郵送を希望する場合は、冊子とじ込みの封筒(長3封筒)に志願者の郵便番号、住所、氏名を明記し、344円(速達料金を含む)の切手を貼付してください。

## 学力検査による選抜（A方式・B方式）

### 1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 高等専門学校を卒業した者（令和7年3月卒業見込の者を含む。）
- (2) 短期大学を卒業した者（令和7年3月卒業見込の者を含む。）
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第132条の規程により大学に編入学することができる者（令和7年3月修了見込の者を含む。）
- (4) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- (6) 我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされる者に限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (7) その他本校専攻科において高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めたる者

### 2. 出願手続

(1) 願書受付

- ① 期 間 令和6年6月3日（月）～6月7日（金） 期間内必着
- ② 時 間 9時00分から16時30分まで
- ③ 受付場所 奈良県大和郡山市矢田町 22 番地  
奈良工業高等専門学校 学生課入試係

(2) 出願に必要な書類等

① 入学願書（学力用）	本校所定の用紙に必要事項を本人が記入してください。
② 写真票及び受験票	本校所定の用紙に必要事項を本人が記入し、正面上半身無帽で、出願以前3ヵ月以内に撮影した写真を所定の位置に貼付してください。
③ 調 査 書	本校所定の様式により出身学校長が作成し、厳封してください。
④ 学 業 成 績 証 明 書	出身学校長が作成し、厳封してください。
⑤ TOEICスコア報告書 及び「公式認定証」または 「個人成績表」の原本	本校所定の用紙に、令和4年4月1日から令和6年4月30日の間に取得した最高スコアを記入し、裏面に原本のコピーを貼付してください。原本は確認のうえ返還します。TOEIC-IP（オンライン）によるスコアは不可です。
⑥ 検 定 料	<b>16,500円</b> 本校所定の用紙に必要事項を記入し、最寄りの金融機関から下記受付期間中に振り込み、 <b>振込金証明書（学校提出用）</b> を願書の裏面に貼付してください。なお、検定料の払い戻しは、次の場合を除き行いません。 ・検定料を納付したが出願しなかった場合 ・出願が受理されなかった場合 ・検定料を重複で納付した場合 ・国費外国人留学生（日本政府（文部科学省）奨学金留学生）として、出身学校において奨学金を受給している者が、この奨学金の延長を申請した結果、延長を認められ、かつ本校へ入学する場合 <b>※ 検定料振込受付期間：令和6年5月27日（月）～6月7日（金）</b>
⑦ 受験票の返信用封筒 ※持参して出願する場合は不要	受験票の郵送を希望する場合は、冊子とじ込みの封筒（長3封筒）に志願者の郵便番号、住所、氏名を明記し、344円（速達料金を含む）の切手を貼付してください。

（次頁に続く）

⑧ そ の 他	現に日本に在住する外国人は、市区町村長の発行する「住民票」を提出してください。
---------	---

※出願資格(3)より出願する専修学校専門課程の修了者及び修了見込者については、受験資格を確認しますので、下記のいずれかの書類を添付してください。

- ① 在学する専修学校が発行する修業年限2年以上で、修了に必要な総授業時数が1700時間以上の専門課程を修了または修了見込の証明書。
- ② 専門士の称号の写し、または専門士の称号が授与される見込であることの証明書。
- ③ 既修了者で、上記①②の書類が提出できない場合は、修了した専門課程が修業年限2年以上で修了に必要な総授業時数が1700時間以上であった申立書。

### (3) 出願に関する注意事項

- ① 出願は、本校所定の出願書類により、出願期間中に持参または郵送してください。ただし、郵送の場合は冊子とじ込みの封筒(角2封筒)を用い、書留郵便にて送付してください。
- ② 提出した出願書類は、いかなる理由があっても返還しません。
- ③ 出願した書類に不備がある場合は、受理しないことがあります。
- ④ 提出した出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学許可後であっても入学許可を取り消すことがあります。
- ⑤ TOEICテストの未受験者であっても、専攻科の受験資格はありますが、TOEICスコアは専攻科学力検査の配点で考慮されますので、受験上不利になります。したがって、「公開テスト」あるいは「IPテスト」を事前に受験し、出願時にTOEICスコアを提出できるようにしてください。ただし、TOEIC-IP(オンライン)によるスコアは不可です。
- ⑥ 出願のためのTOEICスコアの提出には原本が必要です。(TOEICスコアの原本の再発行には、申請してから1ヵ月程度かかります。)
- ⑦ 本校卒業見込以外の者で出願しようとする者は、出身学校での科目・単位取得状況によっては、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構からの学位が授与されない場合があります。

## 3. 選抜方法

入学者の選抜は下記の2つの方式で行います。A方式は、本校専攻科を専願して受験するもので、面接をより重視して選抜を行います。この方式により合格した者は、入学を辞退することはできません。また、A方式とB方式は別々に合否判定を行います。

### [A方式] 専願受験

調査書もしくは学業成績証明書(100点満点)、学力検査(数学100点満点、専門200点満点)、面接(150点満点)及びTOEICスコアによる英語学力評価(100点満点)の結果を総合して行います。ただし、面接点が60点以下の者は、本校専攻科のアドミッションポリシーに著しくそぐわないと判断し、総得点に関わらず、不合格とします。

### [B方式] 一般受験

調査書もしくは学業成績証明書(100点満点)、学力検査(数学100点満点、専門200点満点)、面接(50点満点)及びTOEICスコアによる英語学力評価(100点満点)の結果を総合して行います。ただし、面接点が20点以下の者は、本校専攻科のアドミッションポリシーに著しくそぐわないと判断し、総得点に関わらず、不合格とします。

### [共通事項] TOEICスコアによる英語学力評価点の換算式

$100点 - (600点 - \text{TOEICスコア}) \times 1/5$  (600点以上は100点、100点以下は0点とする。)



# 社会人選抜

## 1. 出願資格

入学時において高等専門学校を卒業後2年以上経過した者

## 2. 出願手続

### (1) 願書受付

**原則、郵送のみ**とします。冊子とじ込みの封筒(角2封筒)を用い、書留郵便にて送付してください。やむを得ず持参する場合は、事前にご相談願います。

- ① 期 間 令和6年8月19日(月)～8月23日(金)16時30分 期間内必着
- ② あて先 〒639-1080 奈良県大和郡山市矢田町22番地  
奈良工業高等専門学校 学生課入試係

### (2) 出願に必要な書類等

① 入学願書(社会人選抜用)	本校所定の用紙に必要事項を本人が記入してください。
② 写真票及び受験票	本校所定の用紙に必要事項を本人が記入し、正面上半身無帽で、出願以前3ヵ月以内に撮影した写真を所定の位置に貼付してください。
③ 学業成績証明書	出身学校長が作成し、厳封してください。
④ 卒業証明書	出身学校長が作成し、厳封してください。
⑤ 志願理由書	本校所定の様式に本人が記入してください。
⑥ 業績報告書	(様式任意)本人が行なった業績内容の概要を職務内容を含めて記入してください。
⑦ TOEICスコア報告書 及び「公式認定証」または 「個人成績表」の原本	本校所定の用紙に、令和4年4月1日から令和6年6月30日の間に取得した最高スコアを記入し、裏面に原本のコピーを貼付してください。原本は確認のうえ返還します。TOEIC-IP(オンライン)によるスコアは不可です。
⑧ 検 定 料	<b>16,500円</b> 本校所定の用紙に必要事項を記入し、最寄りの金融機関から下記受付期間中に振り込み、 <b>振込金証明書(学校提出用)</b> を願書の裏面に貼付してください。なお、検定料の払い戻しは、次の場合を除き行いません。 ・検定料を納付したが出願しなかった場合 ・出願が受理されなかった場合 ・検定料を重複で納付した場合 <b>※ 検定料振込受付期間：令和6年8月13日(火)～8月23日(金)</b>
⑨ 受験票の返信用封筒 ※持参して出願する場合は不要	冊子とじ込みの封筒(長3封筒)に志願者の郵便番号、住所、氏名を明記し、344円(速達料金を含む)の切手を貼付してください。
⑩ そ の 他	現に日本に在住する外国人は、市区町村長の発行する「住民票」を提出してください。

- ### (3) 出願に関する注意事項
- 学力検査による選抜に同じ。

## 3. 選抜方法

入学者の選抜は、学業成績証明書・志願理由書・業績報告書(100点満点)、学力検査(250点満点)、面接(50点満点)及びTOEICスコアによる英語学力評価(100点満点)の結果を総合して行います。ただし、面接点が20点以下の者は、本校専攻科のアドミッションポリシーに著しくそぐわないと判断し、総得点に関わらず、不合格とします。

なお、英語学力評価点は、TOEICスコアを使い以下の換算式によって行います。  
 $100点 - (600点 - \text{TOEICスコア}) \times 1/5$   
(600点以上は100点, 100点以下は0点とする。)

学力検査科目, 面接の日時及び検査場

月 日	時 間	科 目 等	検 査 場
9月19日 (木)	13:00~	※専門科目	奈良工業 高等専門学校
	学力検査終了後~	面 接	

※ 専門科目(専門の基礎について30分程度の口述試験を行います。)

#### 4. その他の注意事項

学力検査による選抜に同じ。  
ただし、12時30分までに受付を終えてください。

#### 5. 合格者の発表

選抜の結果は、令和6年9月26日(木)12時30分に本校構内に掲示により発表するとともに、合格者には「合格通知書」を交付します。また、12時30分頃に合格者の受験番号を本校ホームページ(<https://www.nara-k.ac.jp>)に掲載します。正式な合格発表は「合格通知書」によります。  
なお、電話等による合否の照会には、一切応じません。

#### 6. 入学手続等

- (1) 合格者は、「入学確約書」を令和6年10月9日(水)(当日消印有効)までに提出してください。「入学確約書」を提出しない者は、入学の意志がないものとして取扱います。
- (2) 入学手続日、入学に必要な書類及び経費については、「入学確約書」を提出した合格者に令和7年2月下旬に改めて通知します。

## VI. 個人情報の取扱いについて

出願書類に記入された氏名、性別、生年月日、その他の個人情報は、入学者選抜及び入学手続きを行うためにのみ利用します。

## VII. 合理的配慮等を必要とする場合の事前相談

奈良工業高等専門学校では、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」及び、「独立行政法人国立高等専門学校機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」に則り、障害等による支援ニーズのある学生に対して、受験上または修学上の合理的配慮の提供を行っています。入学者選抜において障害等を理由とした合理的配慮の提供を希望する者は、早めに奈良高専学生課入試係までご相談ください。なお、合理的配慮の提供には準備に時間がかかることもあるため、入学願書提出期限の一个月前にあたる日を過ぎてからの相談及び申請では準備期間が短くなり、希望する合理的配慮を受けられず、安心して試験を受けられなくなる可能性があることに注意してください。

必要に応じて、生徒、生徒の保護者及び、在籍する学校関係者に対して、相談された内容について質問する場合がありますが、合理的配慮に関する申請及び問い合わせ内容は入学者選抜の可否判定には一切影響ありません。

入試の公平性を担保するため、合理的配慮提供の根拠となる資料の提出を求める場合があります。必要となる根拠資料に関しては、文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ）」によって示されている、1) 障害者手帳の種別・等級・区分認定、2) 適切な医学的診断基準に基づいた診断書、3) 標準化された心理検査等の結果、4) 専門家の所見、5) 中学校、特別支援学校中等部等入学前の支援状況に関する資料、6) 本人が自らの障害の状況を客観的に把握・分析した説明資料等が該当します。

※根拠資料に関しては提出の要不要に関しても入試担当窓口までご相談ください。ご提出いただく根拠資料としての要件を満たしているかどうか、担当係において確認いたします。満たしていない場合は、その理由を明示したうえで再提出を求めることがあります。

(お願い)

入学後に修学上の合理的配慮が必要な場合には、合理的配慮提供のための準備を十分に行うために、出願前の可能な限り早い段階で「事前相談」を受けられることをお勧めします。入試後、または入学後に合理的配慮に関して初めて申請なされると、修学に必要な支援を十分に受けられなくなる可能性があります。なお、事前相談を受けられても、入学者選抜の可否判定には一切影響ありません。

(相談窓口) 学生課入試係 (電話番号) 0743-55-6032 (FAX) 0743-55-6039  
(E-mail) nyusi@jimu.nara-k.ac.jp

## VIII. その他

### 過去の入試状況について

過去の入試状況は、下記URLをご覧ください。

URL: <https://www.nara-k.ac.jp/enterschool/senkou/jokyou/>

# 入 学 案 内

## 1. 設 置

平成4年4月1日

## 2. 目 的

本校専攻科は、高等専門学校基礎の上に、精深な程度において工学の高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的としており、本科5年と専攻科2年の7年間を通して、豊かな人間性を備えたチャレンジ精神旺盛な技術者の育成を目指しています。

技術開発や研究開発により豊かな人間社会の発展に貢献したいと考えている人の入学を心から歓迎します。

## 3. アドミッション・ポリシー

本校専攻科では、次のような方に入学してほしいと考えています。

### [各専攻共通]

- (1) 豊かな人間性を有する技術者になりたい人  
(求める要素: 人間性)
- (2) 自らの専門分野を生かし、さらに応用する力を育みたい人  
(求める要素: 知識・技能, 思考力・判断力・表現力)
- (3) 技術を通して国際社会や地域に貢献したい人  
(求める要素: 主体性・協働性・多様性)

### [システム創成工学専攻]

- (4) 創造性を高め、新しいシステムをつくり出したい人  
(求める要素: 知識・技能, 思考力・判断力・表現力)

### [物質創成工学専攻]

- (4) 環境, エネルギー, バイオ, 新材料およびこれらを融合したプロセスに関してその課題発見と解決に貢献したい人  
(求める要素: 知識・技能, 思考力・判断力・表現力)

### [連携教育プログラム]

- (5) 分野横断的俯瞰力を備え、地域社会に貢献したい人  
(求める要素: 知識・技能, 思考力・判断力・表現力, 主体性・協働性)

## 【入学者選抜の方針】

### [推薦選抜]

入学者の選抜は、推薦書(出身学校長もしくは所属企業等の長から提出されたもの)、調査書もしくは学業成績証明書及び面接の結果を総合して行います。ただし、面接結果によっては本校専攻科のアドミッションポリシーに著しくそぐわないと判断し、総得点に関わらず、不合格とします。

### [学力選抜]

入学者の選抜は、[A方式] 専願受験と[B方式] 一般受験の2つの方式で行い、調査書もしくは学業成績証明書、学力検査、面接及びTOEICスコアによる英語学力評価の結果を総合して行います。A方式は、本校専攻科を専願して受験するもので、面接をより重視して選抜を行います。ただし、面接結果によっては本校専攻科のアドミッションポリシーに著しくそぐわないと判断し、総得点に関わらず、不合格とします。

### [社会人選抜]

入学者の選抜は、学業成績証明書・志願理由書・業績報告書、学力検査、面接及びTOEICスコアによる英語学力評価の結果を総合して行います。ただし、面接結果によっては本校専攻科のアドミッションポリシーに著

しくそぐわないと判断し、総得点に関わらず、不合格とします。

#### 4. カリキュラム・ポリシー

- (1) 工学の基礎としての、数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する科目を配置します。
- (2) 各専攻の専門分野において必要とされる専門的知識と基礎技術およびそれらを応用し新しい技術に対応できる能力を身につける科目を配置します。
- (3) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける科目を配置します。
- (4) 自主的、継続的に学習する能力を身につける科目を配置します。
- (5) 地域と世界に対する理解を深め、地域創生や人類の発展に貢献する意欲および技術者としての倫理観を涵養する科目を配置します。

##### [システム創成工学専攻]

- (6) 新規システムを開発する際に要求される、専門分野が異なるチームで仕事をし、与えられた制約の下で計画的に仕事を進める能力や、種々の技術を組み合わせても技術的な問題を解決する力を身につける科目を配置します。

##### [物質創成工学専攻]

- (6) 環境に優しい新材料やエネルギーシステム、あるいはバイオテクノロジーなど、地球環境と調和した社会の持続的発展を実現するために必要な新しい科学技術を創出する力と化学研究者・技術者としての確かなリテラシーおよび国際競争力を身につける科目を配置します。

##### [連携教育プログラム]

- (6) 幅広い分野横断的俯瞰力を身につけるため、専門分野の枠を超えた科目履修および大学との共同開設科目を配置します。

#### 5. ディプロマ・ポリシー (奈良高専専攻科 学習・教育到達目標)

##### [各専攻共通]

##### (A) 幅広い視野と教養

人と社会そして地球環境に関する幅広い知識と教養を備え、その知識を分野横断的・地球的視野から捉えることができる。

##### (B) 技術者、科学者としての高度な倫理観

科学技術が人間や社会、地球環境に与える影響の大きさを理解し、技術者・科学者として高度な倫理観を備えている。

##### (C) 工学の基礎

数学(微分積分、線形代数、確率統計、数値解析)と物理の知識や思考力を身につけ、それを工学的な諸問題の解決に適用することができる。

##### (D) 研究成果の発信力

技術者に必要な論理的な能力を身につけ、それを使って技術論文を書くことや、研究成果を発表することができる。

##### (E) 技術者に必要な英語力

- ・英語で書かれた文献を読解し、情報収集できる。
- ・英語を用いて技術報告書を書く基礎能力を有する。
- ・英語を用いて口頭による発表および討論が行える基礎能力を有する。

##### [システム創成工学専攻]

##### (F) 専門分野の知識

機械工学、電気工学、電子制御工学、情報工学のいずれかの専門分野に精通し、その分野の技術動向を把握することができる。

##### (G) システムの設計力

- ・システムを構築するための基盤となる技術(設計・計測・制御など)の基礎を身につけ、それらを活用してシステム設計ができる。
- ・専門分野の知識を活用して、実験を計画・遂行することができるとともに、得られたデータを正確に解析し、

考察することができる。

(H) 問題解決能力

- ・システムの安全性, 品質保証, 環境負荷, 経済性など実務上の問題を理解することができる。
- ・与えられた課題について, 解決するためのデザイン能力を身につけることができる。
- ・チームワークにより, 定められた条件のもとで, 課題を完成させることができる。
- ・自主的・継続的に問題解決に向けて学習することができる。

[物質創成工学専攻]

(F) 専門分野の知識

環境, エネルギー, バイオ, 新材料およびこれらを融合したプロセスに関する専門分野に精通し, その分野の技術・研究動向を把握することができる。

(G) 物質・材料の創出力

- ・専門知識を基軸とした幅広い視野から問題解決へ取り組める能力を身に付けている。
- ・人類社会の持続的発展を実現するために, 基礎研究により培った技術・研究を応用し, 新しい科学技術を創出することができる。

(H) 優れた技術・研究能力

- ・専門知識を生かして地球環境と調和した豊かな社会の構築に貢献し得る優れた技術・研究能力を身に付けている。
- ・多様化する国際社会で主体的に活躍できる技術・研究能力を身に付けている。

[連携教育プログラム]

(I) 分野横断的な対応能力

システム創成工学専攻, 物質創成工学専攻の(F), (G), (H)に加え, 多様化する技術分野に対する幅広い専門知識と俯瞰的視野を備え, 分野横断的な技術開発へ対応する能力を身に付けている。

## 6. 人材養成目的

○システム創成工学専攻 機械制御システムコースの人材養成目的

機械・電子情報・制御工学等の知識を基礎に, より高度な設計能力, システム開発能力, メカトロニクス技術能力を身に付けた技術者・研究者となりうる人材を養成する。

○システム創成工学専攻 電気電子システムコースの人材養成目的

電気電子工学の基礎理論, 電力システム, 電気電子材料・機器, 情報通信システムなどに関連する高度な知識と技術を修得し, 新たなシステム創成で社会に貢献する技術者・研究者となりうる人材を養成する。

○システム創成工学専攻 情報システムコースの人材養成目的

コンピュータのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークに関する知識を基礎に, 高度な情報工学に関する技術と問題解決能力を身に付けた技術者・研究者となりうる人材を養成する。

○物質創成工学専攻の人材養成目的

時代の動向に対応し, 環境, バイオ, エネルギー, 新素材等の先端研究開発やこれらを融合した新規プロセスの構築に必要な能力を身に付けた国際的に活躍できる技術者・研究者となりうる人材を養成する。

○連携教育プログラムの人材養成目的

各専攻, コースの人材養成目的に加え, 分野横断的の俯瞰力を備え, 地域社会に貢献する技術者・研究者となりうる人材を養成する。

## 7. 修業年限及び修了要件・その他

(1) 修業年限 2 年

(2) 修了要件 62 単位以上

## 8. 学士の学位の取得について

学士号を取得するためには、大学改革支援・学位授与機構※に学位授与申請をする必要があります。(連携教育プログラム対象者は除く。)

本校専攻科は「学士の学位の授与に係る特例の適用認定」を受けているため、平成26年度入学以降の専攻科生は、学位申請時に、科目の修得状況や「学修総まとめ科目」にあたる特別研究の「履修計画書」の提出及び、「成果の要旨」の提出が課されることにより学位が授与されます。ただし、他高専の入学生や社会人入学生の場合は、特例による申請が認められず通常の手続きによる学位取得となる場合があります。

※大学等(大学, 短期大学, 高等専門学校並びに大学共同利用機関をいう。)の教育研究活動の状況についての評価等を行うことにより、その教育研究水準の向上を図るとともに、大学以外で行われる高等教育段階での様々な学習の成果を評価して学位の授与を行うことを業務としています。

## 9. 入学手続き

入学確約書を提出した合格者には別途通知します。

## 10. 入学時の所要経費

入学金, 授業料など

(令和6年4月入学者納入額)

種別	金額	備考
入 学 料	84,600 円	入学手続き時に納入
授 業 料	年額 234,600 円	年 2 回(前期 4 月, 後期 10 月)に分けて納入 前期分 117,300 円, 後期分 117,300 円
学校災害共済掛金保護者負担金	年額 1,550 円	前期 4 月に納入
学外研修等積立金	年額 10,000 円	前期 4 月に納入
計	340,750 円	
後援会入会金	20,000 円	入会時に 1 回(本校を令和5年度に卒業した者は不要)
後援会会費	年額 18,000 円	年 2 回(前期 4 月, 後期 10 月)に分けて納入 前期分 9,000 円, 後期分 9,000 円
小 計	38,000 円	
合 計	378,750 円	

\*授業料については、前期納入時に年額を一括納入することもできます。

また、授業料改定が行われた場合には、金額は変更になる場合があります。

## 11. 奨学金制度等

下記のような制度があります。

- 高専機構の入学金・授業料免除等
- 日本学生支援機構高等教育の修学支援新制度による奨学金の給付ならびに入学金・授業料の減免
- 日本学生支援機構貸与奨学金
- その他の奨学制度

## ～ 高専-大学院連携教育プログラムとは？ ～

### 1. 令和7年度専攻科学生募集要項から実施する取組で、

「将来、奈良先端科学技術大学院大学(以下「奈良先端大」という。)に博士課程後期まで進学し学位取得する意欲のある者で、短期修了により博士前期課程(修士)を1年、博士後期課程(通常3年であるが努力次第で1年短縮可)を経て、大学院修了・学位取得を目指す者」に特別な履修コースを用意するものです。

原則、博士号取得を目指すプログラムになります。博士号を取得する期間が、通常より1～2年短くなることで、若くして学位を取得して就業することができます。

※「社会人特別推薦」、「社会人選抜」は対象外です。

※ 専攻科在学中に学生本人-高専-奈良先端大でメンタリングを行い、学生本人にとって最適な進路を見出します。通常の大学院進学に切り替えることも可能です。(この場合、専攻科、大学院ともに通常の履修になります。)

### 2. 「高専-大学院連携教育プログラム」の履修対象は、システム創成工学専攻(機械制御システムコース、電気電子システムコース、情報システムコース)、物質創成工学専攻のいずれも履修可能です。

※原則、「高専-大学院連携教育プログラム」は専攻科選抜試験の願書の申請時に意向を確認します。専攻科進学後も、追加募集を行う場合があり、その際は、奈良先端大の研究室とのマッチングを以てプログラムを選択することも可能です。

### 3. 「高専-大学院連携教育プログラム」は、専攻科の2年間で、通常の履修(62単位以上)に加えて、

① 奈良先端大の授業科目(講義科目)を20単位修得することが望ましい。

② 特別研究の奈良先端大による特別指導

を追加して履修することになります。

※これらを履修し、②の特別指導による成果が博士前期課程1年次に相当するものであった場合、博士前期課程を1年で短期修了して博士後期課程に進学することができます。本人の意向、あるいは、短期修了が困難な場合でも、通常通り博士前期課程を2年間で修了し、その後の進路を決めることができます。

### 4. 「高専-大学院連携教育プログラム」の履修に当たって経費負担の追加はない予定です。

(通常の専攻科の学費と同額を予定しています。)